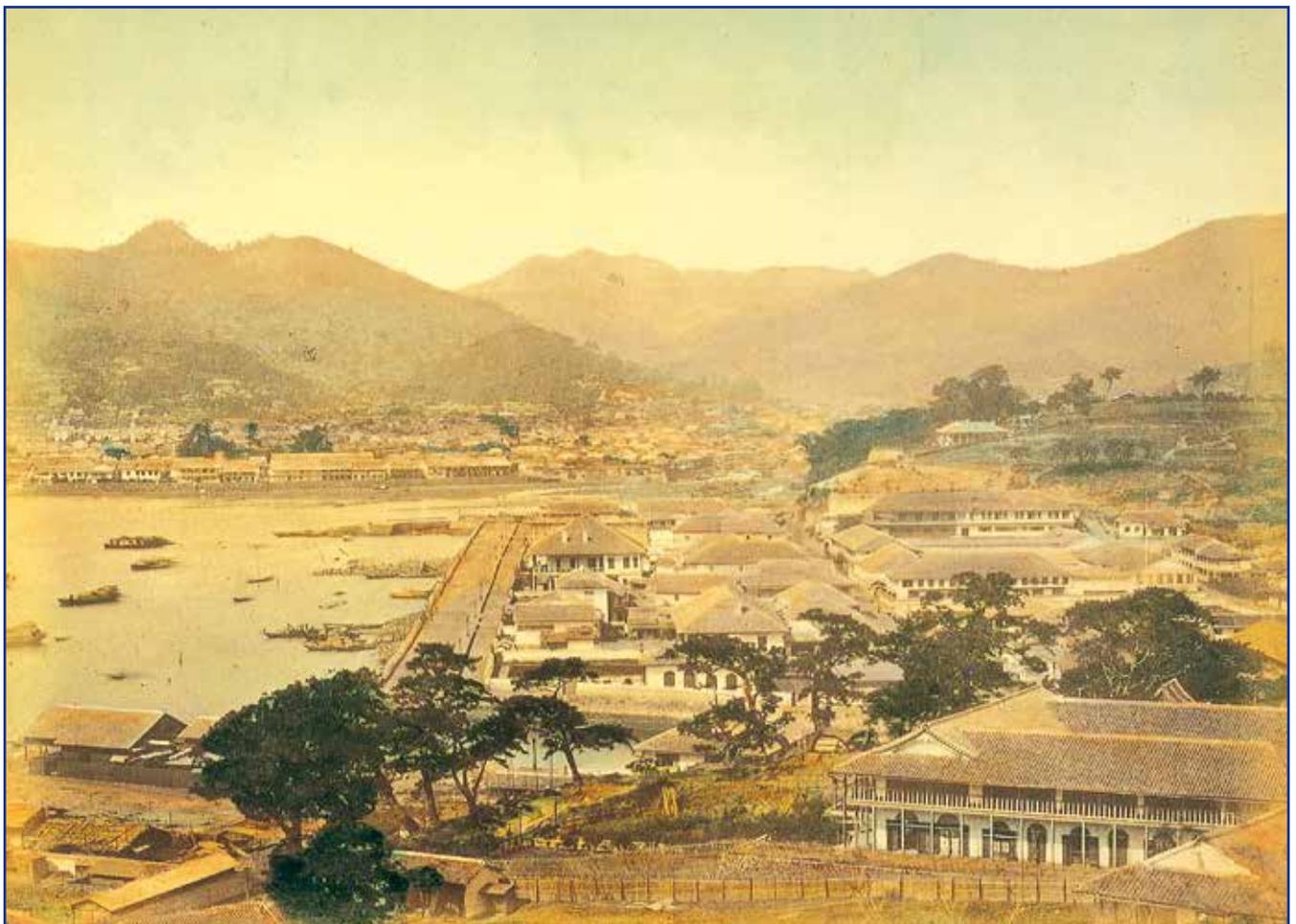


長崎日英協会会報

THE NAGASAKI

BUNND

南山手から大浦と出島を見る



現在のグラバー園入り口付近から撮影したもので、写っている内容から、ベアト撮影のパノラマ写真の一部に彩色を施したものと認められる。大浦海岸通りの築足しを終えた慶応元年頃の撮影と見られる。

(写真：横浜美術館所蔵)

2016.6

vol. 19

平成27年度理事会・通常総会開催



平成27年度理事会



平成27年度通常総会



ご講演されるエイミー・ギフッド氏

2015年(平成27年)6月4日(木)ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルに於いて長崎日英協会の平成27年度理事会及び通常総会を開催いたしました。

理事会において役員改選が行われ、牧文春氏(後藤運輸株式会社代表取締役社長)と松藤章喜氏(松藤商事株式会社代表取締役社長)のお二人が新しく副会長に選任されました。前任の鈴木一郎副会長と村木文郎副会長のお二人は顧問に就任されました。

通常総会には約40名の会員が出席され、総会の冒頭で篠原会長は「昨年の明治日本の産業革命遺産の世界遺産登録に触れ、構成資産の中に英国関連の資産が多いことから、平成27年度は世界遺産登録に伴いさらに長崎と英国との関連を深める事業を行いたい」と挨拶されました。その後、平成26年度決算報告、平成27年度事業計画等の各議案の審議が行われ、各々承認されました。

総会後の講演会では長崎県国際課国際交流員でロンドンご出身のエイミー・ギフッド氏に「イギリスの独特な国民保健ナショナル・ヘルス・サービス」と題してご講演いただきました。英国では、歯科と眼科の一部を除く医療機関は公的資金でまかなうため無料で受診でき、大衆満足度が高い。その反面、医師に軽い症状と診断された場合は診察の順番が遅くなり、検査の結果が分かるまでに数か月を要するという問題点もあるなど、日本とは異なる医療制度について具体的事例を交えお話しいただきました。

明治日本の産業革命遺産～英国関連資産～世界遺産に登録される

2015年(平成27年)7月5日(日)ドイツのボンで開催された第39回ユネスコ世界遺産委員会にて日本が世界文化遺産として推薦していた「明治日本の産業革命遺産」が審議の結果、世界遺産として登録されることが決定しました。構成資産の中には多くの英国関連の資産が含まれており、世界遺産登録を機にあらためて長崎と英国との深い関わりを感じることができました。



【旧グラバー住宅】

1863年(文久3年)英国スコットランド・アバティーン出身の商人トーマス・ブレイク・グラバーが長崎での活動の拠点として建築した建物。



【ジャイアント・カンチレバークレーン】

英国アップルビー社で製造され、1909年(明治42年)に解体して日本へ輸送され長崎造船所飽の浦岸壁に再組立てし竣工した。現在も稼働中。



【高島炭鉱北溪井坑跡】

1869年(明治2年)トーマス・ブレイク・グラバーと佐賀藩が英国人モーリスを招き開坑した炭鉱で、日本初の蒸気機関を動力とした炭鉱。



【占勝閣】

1904年(明治36年)長崎造船所所長、荘田平五郎の邸宅として完成された。設計には工部大学校(現東京大学建築学科)にて英国人建築家ジョサイア・コンドルのもと西洋近代建築を学んだ曾禰達蔵が携わった。



【三菱長崎造船所第三船渠】

1905年(明治38年)に竣工した大型乾船渠で、英国シーメンス社製の電動排水ポンプを設置した。当時の電動排水ポンプは現在も稼働中。



【小菅修船場】

1869年(明治元年12月)トーマス・ブレイク・グラバーが小菅に建設した修船場で、船架の形から「ソロバンドック」の名で呼ばれ、当時は故障しがちな中古船が多かったため頻繁に活用された。



【端島炭鉱(通称)軍艦島】

1890年(明治23年)から本格的に海底炭鉱として良質な製鉄用原料炭を供給し、明治日本の近代化産業を支える炭鉱都市として栄えた。1974年(昭和39年)に閉山となる。

【三菱長崎造船所旧木型場】

1898年(明治31年)に建設。長崎造船所に現存する最古の建造物で、現在は長崎造船所の歴史を紹介する展示施設として一般公開されている。



(写真提供:長崎県文化観光国際部世界遺産登録推進課・三菱重工業株式会社長崎造船所)

福岡俘虜収容所第2分所「犠牲者追悼記念碑除幕・平和祈念式」に出席



宗派を越えた平和への祈り

2015年(平成27年)9月13日(日)長崎市香焼町に於いて福岡俘虜収容所第2分所犠牲者追悼記念碑の除幕式が執り行われました。

福岡俘虜収容所第2分所は第2次世界大戦中に長崎県内に4つ設けられた俘虜収容所のひとつで、現在の香焼中学校の敷地内にありました。戦争当時、収容所には多くの連合軍側の兵士が俘虜として収容され、その中で72名の方が不慮の事故や病気の為収容所内で尊い命を落とされました。その内英国人は41名でしたが、これまで外国から遺族の方々が長崎を訪れても収容所の跡地を示すものもなく、十分な追悼ができないままとなっていました。この度、日本赤十字社長崎原爆病院名誉院長の朝永万左男氏が中心となり追悼記念碑建立を呼び掛けられ、この日に除幕式を迎えたものです。

除幕式には田上富久長崎市長をはじめ、オランダ、米国、英国、オーストラリアより関係者が来賓としてご出席され、駐日英国大使館からはジュリア・ロングボトム公使がご出席されました。来賓の挨拶の後、長崎県宗教者懇話会会長、カトリック長崎大司教、真宗大谷派法生寺住職、浄土真宗本願寺派玄成寺住職合同による平和への祈りが行われ、最後に当時俘虜として収容所で過ごされたヘンク・クレイン氏(オランダ人・90歳)がご挨拶されました。クレイン氏は「共に祖国に帰ることを願いながら異国の地で亡くなった友の無念さを思うと、もう二度と戦争を起こさないで欲しい」と涙ながらに語られました。

長崎日英協会からは安田事務局長が出席いたしました。



ご出席された遺族の方々

第21回三浦按針忌に出席(平戸市)



第41代松浦家当主松浦章氏による鎮信流点前

2015年(平成27年)5月31日(日)平戸市崎方公園に於いてかつての英国武士三浦按針(ウィリアム・アダムス)を偲ぶ「第21回按針忌」が開催されました。

本供養祭は1995年(平成7年)から平戸市の草の根国際交流団体「HIRAの会」によって主催されており今回で21回目の開催となります。

式典には黒田成彦平戸市長をはじめ、在大阪英国総領事館よりマイケル・シアラー総領事、ロンドン大学

アジア・アフリカ研究所のダイモン・スクリーチ教授など約100名の方が出席され、江戸時代徳川家康の外交顧問として海外貿易の基礎を築いた三浦按針の功績を称えました。マイケル・シアラー総領事は「按針忌を通して日英両国の関係がますます強まると信じています」と話されました。長崎日英協会からは篠原会長が出席いたしました。



黒田市長献花の様子

第36回グラバー顕彰式に出席



献花をされる篠原会長

2015年(平成27年)9月19日(土)旧グラバー住宅前に於いて長崎市主催の「第36回グラバー顕彰式」が執り行われました。式典には田上富久長崎市長をはじめ、英国との親睦団体の代表者が出席され、在りし日のグラバーを偲びその功績を称えました。参列者の献花の後、地元の居留地男声合唱団の皆様によるスコットランド民謡「ロッホローモンド」と居留地キッズコーラスによる

小山薫堂氏作詞の「ふるさと」が披露されました。当日は秋晴れの澄んだ青空の下ユニオンジャックが誇らしげにはためています。長崎日英協会からは篠原会長と安田事務局長が出席いたしました。



居留地男声合唱団の皆様



居留地キッズコーラスの皆様

クリスマスパーティ長崎日米協会と合同開催



ご挨拶される里見副知事



田上市長による乾杯



2015年(平成27年)12月11日(金)ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルに於いて、長崎日米協会と合同でクリスマス夜会を開催いたしました。

今年で7回目となる本パーティーには、里見 晋長崎県副知事、田上 富久長崎市長をお招きし、両協会の会員の他長崎在住のALT(英語教師)、CIR(国際交流員)、留学生などの英米圏出身者や英米両国の関係者など過去最高の約150名の方々にご参加いただきました。

今回は“Let's shake hands and talk together!”をキャッチフレーズとして両協会会員と英米の参加者との会話による交流をテーマとして取り組みました。会場内では身振り手振りを交えた片言の英語と日本語が飛び交い、終始和やかな雰囲気の中楽しいひと時を過ごしました。

ながさき異文化ちゃんぽんフェスタへブース出展



紅茶とお菓子の提供

2016年(平成28年)1月30日(土)長崎ブリックホールに於いて、市民が在住外国人と触れ合う「ながさき異文化ちゃんぽんフェスタ」が開催されました。当日は米国・ロシア・ベトナム・アフリカ諸国など11ヶ国の在住外国人の方々が、民族衣装の試着や民族楽器の演奏体験などが出来るコーナーを設けて市民との交流を行いました。

長崎日英協会では英国の紅茶とお菓子を用意して、バグパイプの演奏体験やキルトの試着を楽しんでいただくブースを出展いたしました。

また、今年は「ラグビーワールドカップ2019日本大会」におけるスコットランドチームの長崎でのキャンプ地誘致の広報活動も行いました。

当日の会場は800人に及ぶ多くの市民の方々にご来場いただき、過去最高の賑わいでした。



体験コーナーの様子

第24回 長崎県高等学校英語スピーチコンテストに後援



第1部優勝者
湯河英里子さん（長崎西高2年）



第2部優勝者
吉岡航輝さん（長崎西高1年）



大会参加者

2015年（平成27年）10月10日（土）長崎県立長崎西高等学校に於いて、「第24回長崎県高等学校英語スピーチコンテスト」が開催されました。

大会には、県内から16名が参加し、第1部（海外滞在未経験者）と第2部（海外滞在経験者）に分かれて身振り手振りを交えて熱弁を揮いました。

第1部では「For a brighter future」と題してスピーチされた湯河英里子さん（県立長崎西高校2年）が優勝されました。湯河さんは「過去の戦争の歴史を検証することも大切であるが、歴史に囚われるのではなく、明るい将来を創造すべく各国、各人が互いに議論し行動すべきである」と熱く語りました。

第2部では「Debate and Young People in Japan」と題してスピーチされた吉岡航輝さん（県立長崎西高校1年）が優勝されました。吉岡さんは「ディベートではいかに論点を客観的に分析、立証し相手を説得するかが重要である」と海外での生活の中で感じたことを題材にして語りました。

活水女子学生とALTとの懇談会を開催



参加者全員

2015年（平成27年）7月25日（土）活水女子大学東山手キャンパスに於いて、同大英語専攻の学生と市内在住のALT（外国語指導助手）との懇談会を開催いたしました。ALTは英連邦（オーストラリア・ニュージーランド）より3名、米国より1名の計4名が参加されました。大学側からは加納学長の他、英語専攻科の教授、准教授、学生計21名の方が参加されました。

長崎日英協会としては初めての企画でしたが、文学部英語科の西原教授より「このような機会を可能にくださり誠にありがとうございました。会が終了した後も

学生たちは名残惜しく、さらに目を輝かせてALTの先生方と会話をしていました」との感想をいただきました。

【学生の感想】

- ALTの方々のお話を聞いて新たな視点から長崎を見直すことができたと同時に、他国の外国語教育のアイデアを日本の英語教育にも取り入れるべきだと感じました。またこのような機会があったらぜひ参加したいと思います。（文学部英語学科4年 久松 茅乃）
- ALTの先生方とのディスカッションを通して日本の義務教育における英語教育の問題点が分かり、小中学生にとって一番大切なのは能力ではなく英語を楽しく学ぶことだと痛感しました。今回のディスカッションは日本を客観的な立場から見つめなおす良い機会となりました。（文学部英語学科4年 佐々木 優）



発表会の様子



グループディスカッションの様子

～もうひとつのグラバー邸（高島グラバー別邸）～



高島グラバー別邸復元図（故山崎徳恵氏作）

長崎伝習所
高島グラバー別邸調査研究塾
木下 美佐子



〈高島のグラバーの銅像〉

「実は私も知らなかったんです、高島にグラバーが建てた家があった事を！」

去年の長崎伝習所の一つに『高島グラバー別邸の再建を目指す』というタイトルにすぐに飛びつきました。しかし、確かにこの目で見るまでは、何の事か分かりません。初めて皆で高島に渡り、そこにいた山崎徳恵さん（昨年他界、享年90歳）の「グラバーのおかげで、グラバーのおかげで…」という熱弁を聞き、残っている跡地に建てられた『グラバーの銅像』を見て、ここにあったはずの家は一体どうなったのだろうという思いで、いっぱいでした。

当初の私の考えは、お金持ちになったグラバーが高島のもっとも景色のいい所に別荘を建て、魚釣りでもして大いに楽しんだのだろうと思っていました。いえいえ、これは大きな間違いでした。

その後長崎総合科学大学のブライアン・パークガフニ教授のお話を聞く機会があり、“目から鱗”でした。ペリーが浦賀に寄港する前、何と、イギリス艦隊四隻が長崎に開港を迫っていたそうです。しかし長崎は、今の女神大橋がある海峡に小舟を並べ、拒否している絵があります。そして、その艦隊のそばに、この『高島』があるのです。そして彼らはすでにこの高島にイギリスの第一次産業革命の原動力となった『石炭』の宝の山が豊富にある事を知っていたのです。



〈グラバー別邸の跡地〉

そして日本開港後やってきた21歳のグラバーが、この高島に目をつけられない訳がありません。地上に出ている石炭だけを取っていた高島に、アバディーンまで戻り、イギリスの技師とその技術と機械を長崎に持ち帰るのです。そして地中深く掘り下げ、採炭を行います。これこそが日本近代化の原点、世界遺産になっているあの地味な『北溪井抗』なのです。このイギリス人技師モーリスのために建てた家が『グラバーの別邸』と言われるものでしょう。



〈高島のグラバー別邸案内板〉

この家を建てた人は“小山秀之進”だと言われ、旧グラバー住宅も彼によるものです。故山崎さんは彼を訪ねて天草まで行かれました。そして山崎さんが小さいころ見たと言う家の図面を見つけましたが、「それは“リンガー邸？”だったようだ」と残念そうにおっしゃっていました。私達伝習所の活動は、一枚ぐらい残っているはずだと思うこの家の写真を必死で探しています。

実は私はトーマス・グラバーの息子、倉場富三郎のファンです。父親のかげに隠れ、殆ど表舞台に出て来なかった人ですが、妻のワカさんに着物を着せ、長崎人に溶け込みたく一生懸命だった事がよく分かります。しかし、戦争はそれを許しませんでした。グラバー邸の実質の住民であった二人はその家を追われ、終戦となったその直後8月26日に、富三郎は自ら命を絶ちます。彼もこの家に行った事があったのでしょうか？どんなに無念だった事でしょう。

日本としっかり結びついたグラバー家の盛衰を、私達は忘れず すべて残していかなければと、思うのです。



2019年、ラグビー・スコットランド代表がやってくる！ ～キャンプ地誘致決定までの道のりと意義～

長崎県ラグビーフットボール協会
理事 太田 伸二

2015年3月2日、長崎県は2019年ラグビーワールドカップの試合開催都市に落選しました。失意の中、当会理事長は「ラグビーは倒されてもすぐ立ち上がらなくてはならない。キャンプ地誘致は背水の陣で臨もう」と私共に激を飛ばしました。苦境に立たされた時にこそ、諦めずチャンレンジすることがラグビーに携わってきた者の存在意義として心揺さぶられ、キャンプ地誘致に向けてのリスタートの大きな原動力になりました。



スコットランド代表チーム



マーク・ドットソン氏
スコットランド・ラグビー協会CEO

次に、どうしたらこの誘致レースに勝てる

のか？海外チームにコネクションを持つ人脈を探る中、長崎出身の一人のラグーマンが浮上。彼は前日本代表監督ジョン・カーワンの側近として5年間従事しており、彼自身ワールドカップ日本大会に向け、ちょうどエージェント業務を開業したばかりだったのです。

私共はいち早く彼に接触し、キャンプ地誘致に必要な要件を収集・整理し、まずは長崎市に協力を要請したところ、ご快諾いただき、早々に招致国選定作業に入ることができました。結果、スコットランドを第1候補としてアプローチをスタートし、昨年ワールドカップ・イングランド大会期間中にプレゼンの機会を得ることが出来たわけです。今回の成功に至ったポイントを列挙してみますと

1. スコットランド人は九州人気質と類似点が多かったこと。(情に厚い、約束は守る、都会人に対してライバル心があるなど) トーマス・グラバーとの150年前のご縁を頼りに訪れた私共に対し、意気に感じてくれたことは間違いありませんが、昨年12月には早々に長崎視察に訪れ、その1週間後には内諾の通知、プレゼンからわずか3ヶ月でまさか決定に至るとは正直想像しておりませんでした。両者の類似した気質が功を奏したと言えます。
2. 昨年7月に世界遺産登録された産業遺産にスコットランド人が関わった遺産が多く含まれていたこと。ここでも見えない糸で結ばれていたように感じます。
3. 日本代表が南アフリカに大金星を挙げ、第2戦のスコットランドには負けた後にプレゼンができたこと。これが逆の結果であれば、先方の対応も異なっていたかもしれません。南アフリカへの勝利は世界でも衝撃的なニュースであり、私共にとってはまさに運も味方してくれたわけです。

さて、なぜどの自治体も誘致活動に躍起になっているかというと、短期的な経済効果に加え、「レガシー」(良い遺産)を創出したいからです。海外チームのキャンプを誘致することでインフラの整備、スポーツ振興、当事国との交流等が図られます。これによって人々の暮らしにさまざまな影響が出ます。これを契機として社会に生み出される持続的な効果が「レガシー」です。

おかげさまで長崎では2019年を待たず、早くもレガシープログラムがスタートします。本年6月下旬には日本代表戦終了後、スコットランド代表の選手・コーチ・役員10名弱が長崎市に立ち寄り、小中高校生にラグビークリニックを開催していただくことになっております。また8月には長崎県中学選抜チームによるスコットランド遠征が実施されます。今後も私共の予想をはるかに超えたスピードで交流事業は加速するものと思われれます。またスコットランド側もスコッチウイスキー・キルト・ゴルフ・観光などを積極的に輸出したいとお聞きしております。私共はこのようなご縁をラグビーのみならず、他のスポーツにも好影響を及ぼすよう、更には文化的・経済的交流につながるよう今後も努力する所存です。

最後になりますが、昨年の貴会総会にて「キャンプ地誘致支援の表明」をいただいたことは、私共にとって、どれほど心強かったことか計り知れません。あらためましてこの場をお借りし御礼申し上げます。貴会の益々のご発展を祈念申し上げますとともに今後とも当協会へご支援賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。



スコットランド協会へのプレゼンテーション後
(2015年10月1日イングランド・ニューカッスルにて)
筆者 後方中央

こんにちは！サイモンです

サイモン ロバートソン Simon Robertson

・プロフィール

英国スコットランド・フォルカーク出身
2015年10月来崎
長崎海洋産業クラスター形成推進協議会
(協和機電工業より出向) でプロジェクトコー
ディネーターとして勤務



・日本に興味を持ったきっかけ

この数年、再生可能エネルギーに関する仕事で来崎して、今後の日本の再生可能エネルギーの成長に興味を持ちました。また、もとはといえば、10年以上前に日本人女性とロンドンで出会い、結婚したのがきっかけです。



・日本の好きなこと・食べ物

日本の好きなところはたくさんありますが、来崎して特に感じたことについては以下のとおりです。人々の心の温かさ、フレンドリーさに感激しています。2年前に出張で来崎したときに、たまたま花見中の長崎中央テニスクラブのメンバーと出会い、花見に参加させていただき、今では一緒に毎週テニスを楽しんでいます。アウトドアが好きなため、山、森、海岸、浜辺、すべて近くにそろっている長崎に特に魅了されています。海洋エネルギーの仕事で美しい五島に訪れることができ、とても興味深いです。また、ユニークな日本の温泉、特に雲仙の温泉が大好きです。

日本食も美味しいです。長崎とスコットランドの歴史も興味深いです。ただ、残念ながら納豆と貝類のいくつかは美味しいと感じることができませんが、妻と子供たちの大好物です！



事務局より

新規会員募集中！

長崎日英協会では新規入会の会員を募集中です。会員の皆さま方の中でご紹介いただける方がいらっしゃいましたら是非ともご加入をお奨めいただきますようよろしくお願いいたします。

会費	個人会員	年会費	5,000円
	法人会員	年会費	10,000円

編集後記

○ 2015年(平成27年)7月に英中部のバーミンガム大学が保管するイスラム教の聖典コーランが95%以上の確率で、568年～645年に書かれた最古級のコーランである可能性があるとの発表がなされました。これを書いた人物はイスラム教預言者ムハンマドと対面したのではないのでしょうか？大変興味深いですね。

○ 長崎市では2000年から小学校の英語教育に「ハローイングリッシュ活動」を取り入れて効果があがっているとのこと。ALT(外国語指導助手)がジェスチャーをして生徒がその動作を英語で答えたり、独自に考案したイラスト入りのオリジナルのテキスト教材を使用するなど遊びを取り入れた英語学習を行っています。遊びながら楽しく英語が学べていいですね。

編集・発行/長崎日英協会(株式会社 長崎経済研究所内)
住所: 〒850-8618 長崎市銅座町1-11 十八銀行本店7階
担当者: 安田・岩永
TEL: 095-828-8859 FAX: 095-821-0214